

「福島原発震災に関する研究フォーラム」

概要と本年度の活動報告

共同世話役 清水 奈名子 ・ 高橋 若菜

はじめに

本フォーラムは、宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センターのプロジェクトの一つであった、福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト（FSP:2011 - 14年度）を改組したものです。FSPでは、2011年より宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センターの基幹プロジェクトの一つとして、地域の様々な社会グループと連携しながら、支援実践活動、調査活動、アドボカシー活動を展開してきました。

FSPの活動全般を通じて、プロジェクトメンバーが痛感したのは、原発震災の問題は、決して福島に固有の局地的な危機ではなく、過去の国内外の環境災害にもみられたように、犠牲を一部の社会グループに押付ける構造的問題と認識されることです。宇都宮大学国際学部は、福島隣県に所在する数少ない人文・社会科学系学部として、各研究者のこれまでの研究や社会経験を活かしながら、福島原発事故がいかなる衝撃をコミュニティに与えたのかを程よい距離感でもって観察し記録し、発信することができる場所に立地されています。こうした記録を残すことは、地域社会、日本社会、そして国際社会への社会貢献であり、また後世への“社会的責務”とも考えています。

こうした共通認識から、本年、FSPメンバーは、FSPのプロジェクトを、少し緩やかな組織形態であるフォーラムに改組し、これからも記録の継承を通じて、問題構造を追及することとしました。具体的には、本フォーラムでは、2011年3月の東日本大震災以降に実施してきた福島原発震災の被災者支援・調査活動をもと

として、福島原発震災が社会にどのような影響を及ぼしたかを構造的な視座から捉え記録し、社会に広く公表・発信していくことをめざしています。また、原発震災による被災者の困難は長期化していることをふまえ、現実の政策課題の提言につながるような研究をめざしています。

2015年度は、以下の通り、栃木県内被災者・市民社会に関する研究をすすめました。また、これまでの避難者研究蓄積の統括を行い、図書や論文を公表し、学会報告も行いました。さらに、こうした成果を教育活動にも融合し、研究会やシンポジウムなどを通じて、市民社会へも発信しました。

メンバー

共同世話役：清水奈名子・高橋若菜

アドバイザー：重田康博

メンバー：阪本公美子・田口卓臣

スタッフ：勾坂宏枝

関係団体：FnnnP 栃木 Jr

学外連携者：

原口弥生（茨城大学）・西村淑子（群馬大学）

研究分野・担当領域

1. 栃木県内の被災者・市民社会研究グループ：清水・勾坂
2. 新潟県内の被災者・広域避難支援研究グループ：高橋・田口
3. 教育・発信グループ：清水・高橋・阪本重田・田口・勾坂

予算

・科学研究費補助金 基盤C「広域災害支援におけるフロネシスの継承に関する学際的

- 研究～新潟県を事例として」（平成27～29年：研究代表者：高橋若菜）
- ・平成27年度宇都宮大学地域志向教育研究支援事業「栃木県北被災地域における市民活動の検証 ―子育て世代と高齢世帯の連携を中心として―」（研究代表者：清水奈名子）
 - ・宇都宮大学国際学部叢書出版助成（高橋若菜）
 - ・国際学部附属多文化公共圏センター連続市民講座事業費
 - ・宇都宮大学女性研究者キャリア支援室 研究補助員配置制度（高橋若菜・阪本公美子）

活動内容

<研究会・シンポジウム・報告会・教育活動>

2015/4/10	避難者交流会ふくしまあじさい会での避難者証言集に関する報告（下野市）（清水）
6/6-7	足尾・渡良瀬フィールドツアー（高橋・匂坂）
6/28	水俣から照らす原発災害と足尾銅山鉛毒事件水俣シンポジウム（阪本・清水・高橋）
7/31	国際開発学会「開発経験の実証的考察を通じた発展・開発のあり方の再考」研究部会 ¹ （明治学院大学）（重田）
8/1	福島被災者に関する新潟記録研究会（高橋）
11/14	「福島原発震災に関する研究フォーラム」研究会～とちぎ暮らし応援会運営委員の君嶋福芳氏へのインタビュー（清水・高橋・匂坂）
2016/3	甲状腺検査アンケート結果報告会（宇都宮大学）（清水）

<研究調査>

2015/4/3	栃木県北ADRを考える会関係者聞き取り調査（那須塩原市）（清水）
4/20	避難者証言集協力者への追加的な聞き取り調査（二本松市）（清水）
4/25	避難者証言集協力者への追加的な聞き取り調査（益子町）（清水）
4/27	那須塩原・放射能から子どもを守る会関係者聞き取り調査（那須塩原市）（清水）
5/25	立教大学関礼子先生への避難者証言集に関する聞き取り調査（東京）（清水）
6/13-14	関東子ども健康調査支援基金甲状腺検査（那須塩原地域）アンケート調査（清水）
7/4	関東子ども健康調査支援基金甲状腺検査（益子・真岡地域）アンケート調査（清水）
8/26	那須塩原・放射能から子どもを守る会関係者聞き取り調査（那須塩原市）（清水）
8/27	那須塩原市議会議員への甲状腺検査アンケート結果概要説明（那須塩原市）（清水）
9/21	東海村原子力関連施設視察と関東子ども健康調査支援基金関係者聞き取り調査（清水）
10/17	関東子ども健康調査支援基金総会での関係者聞き取り調査（常総市）（清水）
11/6	那須塩原・放射能から子どもを守る会・塩谷地域関係者聞き取り調査（矢板市）（清水）
12/5	避難者支援行政担当者への追加的な聞き取り調査（新潟市）（高橋）
12/13	関東子ども健康調査支援基金甲状腺検査（塩谷・矢板地域）アンケート調査（清水）

1 FSPは、国際開発学会「原発震災から再考する開発・発展のあり方」研究部会とも連携して研究をすすめていました。当研究部会は、2015年度に「開発経験の実証的考察を通じた発展・開発のあり方の再考」研究部会へと名称変更し、原発震災から見えてきた開発発展問題をさらに広い視野から、国際社会に通底する問題として捉える研究に貢献していきます。

II 活動報告

<出版図書・論文>

- Shimizu, Nanako. (2015) “Human Insecurity Caused by the Dysfunction of the State: New Security Issues in Post-Fukushima Japan,” in *Asian Journal of Peacebuilding*, Vol. 3 No. 2, pp.165-187.
- 清水奈名子 (2016) 「第11章 (核・原子力) 話しにくい原発事故の被害」金敬黙他編『教養としての平和とジェンダー』法律文化社、刊行予定.
- 高橋若菜 (2015) 「原子力賠償・復興支援策からこぼれ落ちる原発被災者たち ー通常の災害復興支援による救済と限界ー」『環境経済・政策研究』8 (2) ,62-66.
- 高橋若菜 (2016) 「原発広域避難者の実情の量的考察ー福島隣県5県における広域避難者アンケート調査を題材としてー」『環境と公害』45 (3) .
- 高橋若菜編 (2016) 『原発避難と創発的支援』本の泉社、刊行予定.
- 田口卓臣 (2016) 「否認に関する断片的考察：『脱原発の哲学』の余白に」『宇都宮大学国際学部論集』41.
- 田口卓臣 (2016) 『脱原発の哲学』人文書院、刊行予定 (佐藤嘉幸との共著) .

<報告書>

- 宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター (2015年11月) 「連続市民講座 vol.10 報告書 ー水俣から照らすー原発災害と足尾銅山鉍毒事件」CMPS.
- 清水奈名子編 (2016年2月) 「栃木県北の被災経験を語るー女性と子どもの視点からー」CMPS福島原発震災に関する研究フォーラム報告書.
- 清水奈名子編 (2016年3月) 「栃木県北の被災経験を語るー市民による健康調査とADRへの動きー」CMPS福島原発震災に関する研究フォーラム報告書.

高橋若菜・匂坂宏枝編 (2015年10月) 「宇都宮大学アクティブラーニング 基盤教育「環境と国際社会」国際学部「環境と国際協力演習」足尾・渡良瀬河流域ツアーから学ぶ足尾鉍毒事件の構造 実施報告書」.

<学会報告>

- 清水奈名子 (2015) 「意思決定とジェンダー不平等 ー福島原発事故後の「再建」過程における課題ー」(United Nations University-Institute for the Advanced Study of Sustainability public seminar on Understanding and Communicating Risks Post-Fukushimaにおける口頭報告、2015年11月12、13日、国連大学 (東京))